京都市学校歴史博物館だより

VOL. 7

平成15年10月発行

企画展 むかしの教科書大集合 Part 2

開催期間/平成15年7月24日(木)～平成15年11月4日(火)

明治期，我が国の近代教育制度のはじまりとともに，新しい教科書が生まれ，およそ130年たちました。この間，社会の変化を背景に教科書も変容し，とくに日本社会の歴史的転機には教科書も大きく変わりました。

今回の企画展では，近代日本の歴史の中で迎えたいくつかの教科書の転換期と，その当時の教科書を紹介します。それぞれの教科書をご覧いただき，日本の歩みを改めて振り返るとともに，これからの教科書の在り方についてお考えいただく機会となれば幸いです。

「尋常小学 国語読本」

「窮理図解」

●展示構成

＜教科書＞ Ⅰ．明治維新後の文明開化の頃の教科書
Ⅱ．国会が開かれた頃の教科書
Ⅲ．中国やロシアと戦った頃の教科書
Ⅳ．民主主義の意識が高まった頃の教科書
Ⅴ．太平洋戦争中の教科書
Ⅵ．日本国憲法発布後の教科書
Ⅶ．東京オリンピックの頃の教科書
Ⅷ．触れる教科書大集合

＜美術作品＞「教科書を彩った歴史上の人物」コーナー

●主な展示資料

「窮理図解」（明治4年）福沢諭吉　元柳池中学校蔵
「小学修身書」（明治27年）澤幸次郎　元梅屋小学校蔵
「尋常小学 国語読本」（大正7年）文部省　学校歴史博物館蔵
「改定小学日本歴史附図」（大正3年）交盛館　乾隆小学校蔵
「文芸読本」（大正13年）　児童読物研究会　学校歴史博物館蔵
「うたのほん下」（昭和16、18年）文部省　学校歴史博物館蔵
「歴史科教授用参考掛図」東京帝国大学　元桃薗小学校蔵

展示総数381点（内，触れる教科書266冊）

開館5周年・第2展示室新設記念特別展 「こんなにある学校のたからもの」

開催期間/平成15年11月6日(木)～平成16年1月27日(火)

京都市学校歴史博物館は，平成10年11月の開館以来，今年で5周年を迎えます。

これを記念して来る平成15年11月6日から16年1月27日まで，特別展「こんなにある学校のたからもの」を開催します。

明治2年に64の番組小学校が創設されて以来，長い歴史と伝統をもつ京都市立学校には，地域の人々や芸術家などから寄贈された美術品等が数多く保存されています。今回の特別展では，これら貴重な学校文化財（美術工芸品）をご覧いただき，京都の学校と著名な芸術家たちとの興味深いエピソードや，子どもたちの健やかな成長を願った心温まる想いなどに触れていただけたら幸いです。たくさんの方々の御来館を心からお待ちしております。

●展示予定作家等

＜絵画＞ 池田遙邨,梅原龍三郎,竹内栖鳳,堂本印象,富岡鉄斎,橋本関雪,向井潤吉,安井曾太郎,山口華楊 ほか

＜陶芸＞ 河井寛次郎,北大路魯山人,楠部彌一,五代清水六兵衛,近藤悠三 ほか

＜書蹟＞ 伊藤博文，湯川秀樹 ほか

山口華陽「凝視」
元格致小学校・現洛央小学校蔵

特別対談

「祖母松園を育んだ京都の学校と風土」

特別展「京都の学校ゆかりの画家　上村松園」にちなみ，松園の孫で日本画家の上村淳之京都市立芸術大学副学長と，上田正昭学校歴史博物館館長の対談「祖母松園を育んだ京都の学校と風土」を開催しました。

松園は，同博物館となった元開智小学校で学び，理解ある母の庇護のもと京都府画学校に進み，その後日本画家として大成しました。
対談は，上村氏の松園の思い出から始まりました。そして京都府画学校ができた背景には，自由な価値を認め合う気風が京都にあったということが語られました。

上田　上村松園先生は，開智小学校に入られて，それから京都府画学校に入学され，鈴木松年先生について習われているわけですが，自由時間には人物画ばかり描いておられたようですね。

上村　おいでになるお客様を物陰から写していた，そのなかでたぶん人物画に入り込んでいったと思われますね。（中略）京都府画学校がどんな経緯でできたかというのが，これが非常に京都的でおもしろい。明治の時代に京都を活性化させるのは何かということが論じられ，それは文化だということになったのです。（中略）松園は塾生として大きくなってくるわけですが，師匠の鈴木松年の許しを得て幸野楳嶺先生のところに門下生として出させてもらう。師匠同士が話をして，弟子を先生に預けるわけですね。そういう自由な教育の場というものが，その当時から京都にあったと思われます。

対談当日の様子

上田　私は松園先生の絵を見ていて，松園先生のお母さま，伸さんというんですね。この方の影響ももものすごいなと思うんですが，どうですか。

上村　そうですね。その当時とすればたいへんな女性になります。娘に何もしなくてもいい，あとは全部私がやってあげるから，絵だけ描きなさいというようにした。ですから，たぶん松園はナイフは使えないと思います。と申しますのは，一生鉛筆を使っておりません。全部筆です。ですから，スケッチをいたしますのも全部矢立という，ご存知の筆でございます。それは博物館にまいりまして模写をいたします時も全部矢立。そのときは博物館が許したのがおもしろいですね。いまならペンを使ってもいけない。ましてや墨なんてとんでもないと叱られるんですが。そこで懸命に写している。写すというのは，ぴたっと重ねて写すわけじゃありません。見ながら写していく。

松園はモデルを使っておりません。人物画をたくさん描いておりますが，人物をそこに座らせて，こういうふうにポーズをしてくださいというような，これは一切無い。これは西洋の考え方です。対象のものを再現するということが主たる目的ではじまった西洋画と，そうではないんだと。根本的に違うわけですね。ただ，表情を写すのに，精神科の病棟に通ったことはあるらしいです。これは狂女を描くときです。これは「花筐」という恋に狂った女性を描くときに，これを描いたことがあります。そのときにそこで勉強したということです。

そのモデルを使っていないということ，これを花鳥画のところに持ち込みますと，鳥はじっとしていてくれといっても，絶対に動く。むしろ人間よりも動いているわけです。そのなかから姿をとるわけですから，尋常一様のことではできないわけです。動いている姿を見て，そのなかで自分のイメージに合う形を作りあげて絵にするわけです。芸術というのは，作家が夢想した世界を具現化することです。造形芸術だってそうです。形で表すんです。決して形を再現するのではなくて，自分が夢想して胸中につくりあげた世界を具体的なかたちにする。これが造形芸術であります。芸術のすべてがそうだと私は言えると思います。音で表現したり，あるいは言葉を並べて，構築して一つの世界をつくりあげる。そのなかに皆様をお誘いして，そして共にいい人生を考えましょうというのが，一級の芸術だと思います。退廃の方向に導くものは，一級の芸術とはいえないと私は思います。

松園はたくさんの絵を描いてまいりましたが，代表作といわれるもののほとんどは，謡曲，世阿弥のつくりました世界を描いております。コンセプトがそういうところにありますので，けっして風俗画にならない。あるいはいわゆる美人画に陥ることはなかったというのは，その辺であろうかと思います。先ほど申しましたように，夢想する世界の具現化である。絵というのは最初にイメージがあるんです。イメージをつくりあげるんです。そのイメージをどうして表現しようかなと。これはこの花のほうがいいのか，この鳥がいいのか，この人物がいいのか。それは表現の媒体として適当なものを選ぶのであって，先にものがあって描くのではありません。松園はそういう物語，謡曲の主題，そういったものでコンセプトを求めて描いてまいりましたから，松園の描きましたものは自分の胸中につくりあげられた女性の理想像であったというように思います。

上村氏は自らの芸術論を交えながら松園の画と，京都の風土について指摘されました。
上田館長は「京都は番組小学校というかたちで地域が教育を支えてきたが，今は教師も父兄も教育に対する情熱を失いつつある。もう一度，学校のありかたや教育に対する情熱を考えてみたい」と締めくくりました。

（編集：事業課業務係）

企画展示「子どもの風景」について 展示の様子とアンケートでの来館者の声

平成15年4月24日～7月22日まで企画展「子どもの風景」を開催しました。各時代の学校生活の特徴を物語る子どもたちの姿を各学校で撮り，保存されていた写真資料で紹介するとともに，芸術家が情感をこめて描いた子どもの姿の作品を展示しました。

来館者の方が卒業写真，昔の授業風景や行事などの写真に見られる懐かしい時代をご覧になり，子どもの健やかな成長を願った芸術家たちの情熱に触れて，感じられたことを紹介させて頂きます。

アンケートより

- 親切に説明していただき，展示がいきいきと伝わった。（70代 男性）
- 学校設立当時の人々のバイタリティーや，新しいものに出会う喜びが伝わってくるような気がしました。これからも，学校を通してみられる京都の人々の心意気をこのような形で大切にしていってほしいと思います。（20代 女性）
- 久しぶりに母校の開智校を訪れ，懐かしい上に御親切に案内して頂き，興味深いお話をいろいろと聞かせて頂き，本当に楽しいひとときでした。母校が，こういう意味深い形で残って（廃校になってさびしかったのですが）安心しました。（40代 女性）
- 京都の人々の，学校を愛し，大切に思う心（それは子どもを大切に思うことにつながる）が，伝わってきました。（50代 女性）
- 孫がよく昔のことを聞くので，一度当館に連れて来ます。（70代 女性）

昔の学校あれこれ　第一回

「運動会」

京都市の小学校で運動会が始まったのは，いつごろかはっきりしません。しかし全国的に運動会が行われるようになったのは明治中期頃からではないかと言われています。

当時の小学校には，運動会ができるほどの広い運動場はありませんでした。そこで，神社の境内や川原，野原などへ弁当を持って出かけ，かけっこなど簡単な競技を行い，夕方までに帰ってくるという遠足運動会が行われました。

上賀茂神社や下鴨神社の境内や，円山公園の音楽堂あたりにあった真葛ヶ原で運動会をしたことが思い出話として残されています。

明治～昭和30年代後半になると，小学校に広い運動場ができはじめました。そして綱引き，玉入れなどの競技も行われるようになりました。写真は明治38年の元格致小学校の運動会のようすです。さて，何の競技でしょう？

教科書展から

博物館主事　森　茂雄

教科書には独特の魅力があり懐かしく感じられるものです。特に，誰もが使った国定教科書には共通の思いにかられるのではないでしょうか。

国定教科書は，明治37年以降，数回改訂され，それぞれの特徴がありますが，ここでは，民主主義の意識の高まった大正期の国語と歴史の教科書を中心に紹介します。この時代は，第1次世界大戦が終わり，大正デモクラシーといわれる頃で，自由主義の思想が見られ，教育にも自由主義・児童中心主義の教育が取り入られてきます。童心主義的な童謡・童話が多く作られ，文芸教育が強調されました。鈴木三重吉などによる，童謡や童話を集めた「赤い鳥」の発刊なども丁度この時期です。

また，教科の研究会の発足や京都府視学寺田喜二郎を中心とした児童読物研究会が「文芸読本」を月ごとに発刊し，児童に読物に親しむ機会を与えるなどの活動がありました。

国語では，前期版を改した「尋常小学読本」（黒表紙）と共に「尋常小学国語読本」（白表紙）が出版されました。これは，地域の特徴や事情によって選択できるようにするためでした。新しく出版された白表紙本では，以下の特徴があります。

- 単語による言葉を少なくし，早くから文の形で出している。
- 口語文体で会話に変化をもたせたり，文中に歌を入れたりしている。
- 政治，経済，産業など社会的教材を多く入れている。
- 児童文学を多く出している。
- 日常生活から取材し，同年代の児童を多く登場させている。
- 実業・経済・政治・近代科学・外国に関するものを取り上げている。
- 挿絵についての配慮をしている。活動的なものや洋画風なものを取り入れ，色の濃淡を工夫している。

一方，歴史教育は「国史」と名称が改められました。この時期にできた教科書「尋常小学国史」は，前期の「尋常小学日本歴史」と比べ，以下の特徴があります。

- 内容も豊富になり，頁数もふえている。
- 人物主義が一層貫かれ，人物の課題名が多い。
- 天皇中心の，国体思想が一層強化されている。
- 文化人は少なく，弘法大師・新井白石のみである。
- 天皇家の人々，忠臣，義士，偉人の幼児の逸話を多く取り入れている。
- 神話を歴史の一部と位置づけている。

この時期の自由主義的教育は教育方法の改革にとどまり国家主義的な歴史教材は残されることになりました。

戦後，民主主義の思想が広まり，教科書も国定制度から検定制度に変わりました。歴史教育は「社会科」という新しい教科で学習することになりました。今後ますます親しみのある教科書が出版されることを期待しています。

「文芸読本」

「改定小学日本歴史附図」

ボランティア市民学芸員の声

「来館者と共に」

学校歴史博物館 市民学芸員　相原　春江

博物館の入り口を開けると“二宮金次郎”（石像）が例のポーズで迎えてくれます。“こんにちは”と言いながら今日はどのような出会いがあるか楽しみに，私のボランティアの日が始まります。

開館以来市民学芸員としてお手伝いさせていただいていますが，ただ美術館・博物館のボランティアをやりたいというだけで特別な知識もない私は解説者と言うより案内者です。

来館者とご一緒に展示品を前にして学校にこのような立派な物があったのだと感動を共にしたり，また，ご年配の方より昔の教科書の前で小学校時代の思い出話や当時の京都の様子など聞かせてもらうのは貴重な時間です。しかし中には一人で館内を回りたい人もおられるし，その場合必要な時のみ声をかけてもらうようにしています。夏休みには親子連れで宿題のテーマをみつけにこられて，こちらまで何がよいか考えこんでしまいます。また，“この館だったらきっとある筈！”と言って来館された方が探しておられた資料が見つかった時など本当にうれしくなります。このように来館者の方の目的に応じたお手伝いができればとおもいます。

夕方には今日はこれで良かったのかなとかやはり勉強不足だなあとか思いながら玄関の石像にさようならをします。

あまり大きくはない博物館ですがこの中にはいろんなものが一杯詰まっている館，この館に関わらせていただいていることに感謝しています。

講演会のご案内

開館5周年・第2展示室新設記念講演

「古代の日本と東アジア」

～最近の研究成果をめぐって～

日　時　平成15年11月15日(土) 14：30～16：30

講　師　上田 正昭 当館館長・京都大学名誉教授

内　容　古代日本史・東アジア史の第一人者である上田正昭館長の講演会を開催いたします。

定　員　350名

参加費　無料

申込方法

平成15年11月8日（土）までに当博物館へ電話でお申し込みください。

☎075-344-1305

京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町仏光寺下ル桶町437（元開智小学校）
TEL.075-344-1305 FAX.075-344-1327　〒600-8044

●入館料/大人200円　子ども（高校生以下）100円
（20名以上の団体/大人160円　子ども80円）
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
●開館時間/9：00～17：00（入館は16：30まで）
●休館日/水曜日（休日の場合は翌日）
12月28日～1月4日

ひと・まち・ロマン 元気都市・京都

交通　ACCESS

●阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
●地下鉄/烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
●市バス/「四条河原町」停下車 河原町通より西へ二筋目（御幸町通）より南へ歩5分